

ADULT
ONLY

拘束調教 3隊長 2



「パリシヤケ姿は3人の中じゃお前が一番可愛いな はやて。これからその凛々しさと愛らしさを兼ね備えた極上魔導師姿を、たっぷり愛でてやるからな。お前のカワイイ尻に当たってる。反対の返った剛直を。お前のカワイイむちむちまんこに、たっぷり沈めて。お前のカワイイむちむちまんこに、堪能させてやる」

「ハ…イ、バインドに屈服し、SSランク魔導師はやてを思う存分蹂躪してください…」

（演技…演技や、従順に落ちたフリをしてこの催淫拘束バインドも必要無くなつたとこの人達の油断を生みだす為、今は術中にある様に思わせるんや…）

（でも…こんなたくましいモノ入れられたら…私…どうなってしまうんや…）

（それにこんな男らしく体を抱きかかえてカワイイなんて繰り返して言われたら…おまんこだけやなくて胸の奥まで…切なくなってきたまう…）



「バイブぶっ刺されたプリケツを
どうぞご自由に弄んでくださいってな感じで
男に差し出す
これがメスブタ奴隷オンナの礼儀作法だ
しっかり身に付けるよ はやて」

「ハイ！ハイ！覚えてましたから
早く！早く！バイブだけやなくて
貴方のおちんぽ！はやての濡れ濡れおまんこに
ぶっ刺して下さい！この情けなくも
惨めなケツ穴バイブぶっ刺されたい
はやての無様姿に興奮してくれたい
このまま…このままおまんこ
レイプしてやあ！」

「おちんぽの熱気が…！
この距離でお尻に伝わってくる…！
この穴こじ開けられて、
ケツまんこほじ開けられて、
おまんこ行為に移つてこの人満足させて
さっさと行なうに、おまんこ本気で
このままじゃ、おねだりし始めて
本気で、おちんぽ、おねだりし始めて
し始めてしまう！」

オラ！イクぞ！はやて！
奴隷のお前に俺の
ラブラブザーメンぶっ放してやる！
イクぞイクぞイクぞ！

ハイ！ハイ！
たくましいあなた
たくましいおちんぼ
たくましいおちんぼ
御遠慮なく大量発射してえ！

演技…！これは…
演技…やあ…！！

オラア！テメエは最高だ はやて！
最高の美少女魔導師だ！
俺の濃厚スペルマ褒美に食らえ！

あ…！ありがとうございます！
ありがとうございます！

そら
上の口でもしつかり
俺のスペルマの味を
覚えろ奴隷！

なんて太いおちんぼと…
芳醇な…ザーメン…♡

むふウツ！

油断させ、隙を生みださせる：
 そんな機会は巡ってこず、
 気が遠のくほど犯されつくされ、
 言葉で蕩けさせられ
 気が付けば惨めにも全裸で天井から吊るされていた：

「お前の目論見なんぞ読めてんだよ、このメスダヌキ。
 この俺とお前がまぐわいまくった淫臭と熱気が籠った
 この密室に吊るし放置しておいてやるから
 しっかり男に抱かれる事しか考えられない
 S S ランク熟成メスブタに成り果てやがれやブタはやて」

こんな…何しても敵わんうえに、考えも見透かされて
 なお且つ全身に精液浴びせられて男を知らしめされた状態で
 拘束放置なんてされたら…ホンマに…言われた通りの
 S S ランクメスブタに…熟成されてまう…
 S S ランク熟成メスブタ・八神はやてになつてまう…
 そうやって男の人に御挨拶する日…きつと来てしまふ…



「インパルスフォーム姿つてのも
凛々しくてそそるぜ執務官さん
その凛々しくも縄食い込ませて股濡らしまくった
無様な姿でこのチンポにしつかりご挨拶しな
この間楽しんでませてもらった礼も込めてな」

「あれはこのバインドの所為：
今のこの状態も……」

「バリジヤケ纏って精神的にも凛々しくなつたつもりか？
とところで高町教導官もお前と同じ事に遭つてると思うが
何処でどういう事になつてるのか
知りたくないかな執務官さん？」

「……」

「どうしてもツツパるつてんなら
お前はそのまま放置して
お前を泣かしたこのチンポ、なのはなり
はやてなり恵んでやるだけだぜ
どうする？」

「……！！
こんな股間に縄が食い込んだ
状態で放置だなんて！！
とても耐えられない！！
（泣）

そう…なのはを
救わなくつちや…

これは
なのはの為…

その為にはまず
この男を満足させて
なのはの事を
聞き出さないと…

なのはの為に
今は従うしか…

ちよつと口実を与えれば
すぐ自分からチンポを
しゃぶりつきたがる！

そのお前のどうしようもない
天性のマゾ性癖！
とつづくに見切られてんだよ！

引つ掛かりやがつたな！
このマヌケなマゾ豚が！

ふぐいおお！

んッ！

んッ！
んッ！
んッ！

ふふおおおッ！

そ…そんなあ！

顔面にスperlマ
浴びせまくつてやるから
思い知りやがれ！
豚フェイトオ！

「ザーメン…すごい…
お射精たくまし過ぎ…る…」

「ふん、フタにはお似合いのメイクだ
お前は本当は友情だの正義感なんぞより
目の前の巨根に屈服するのが好きなどうしようもない
先天性のマゾフタなんだよフェイト」

おふ…う…

ん…

「精臭で自分の浅ましさを自覚出来たら
下の口でも楽しみたいくなってきたら
この濃密ザーメン
また陸奥で楽しませてやるぜ」

「ハイ…
発情マゾフタフェイトのおまんこ…
思いつき貫いて下さい…」

鼻の穴にまで中出しされ
眩暈を起こすような濃密な性臭に
朦朧とした意識の中で
また一つ強姦魔達の都合のいいオンナに
堕ちた事を実感した

「ひん！ひん！ひん！ひん！
すごい！おちんぼん！すごい！
ありがとうございます！
ありがとうございます！！」

「突いて欲しいけりや
チンポに謝意を示して
その美脚を上げ続ける！」

「ハイ！従います！従います！
なんでも従いますから
もつと貴方のたくましさでフエイトを
征服してくださいひゃい！！」

「そうやって本性を曝け出しまくれ！
そうすりゃなのはと並べて、なのはの目の前で
生ハメ生中出しされるお前のブザマを晒させてやる！！
どうだ嬉しいだろ！」

「ハイ！ハイ！なのはの目の前で！
なのはと一緒にならんと
交尾しちゃうなんて考えただけでも……！
イク！イク！イククうううッ！」



「今日は大人数集まってモテモテだなあ　なのはちゃんよオ」
「パリジヤケ姿のエースオブエースと生ハメ出来るって聞いたたら
お前をチンポで泣かせてえつて奴らが集まっちゃうてよ
たっぷり可愛く泣かせてやっから
期待しろや　なのはア」

「誰が泣くものですか…!」

「ラエイトちゃん、はやてちゃん…
たとえどんな事になつても絶対私が助け出すから…
だから絶対、こんな人達には負けられないで…!」

「まずは俺が一番ヤリだ！
高町なのはと愛し合っでヤル！」

「あ、愛し合っでなんか！」

「何言っでやがる！腕のバインド外してやっでんののに
両腕でしがみついでくるじゃねえか！カワイイ女だぜ！」

「おうおう、熱いねお二人さん」

「違うの！
持ち上げられて不安定だから！
こんな熱烈に求められた事無いから！
体が熱くて！おまんこ切なくて！
仕方ないからあ！」

「言いつが
言いつになつてねえぞ！
オラ！イけ！なのは！
俺とラブキスしながら
ラブザーメンくらつてイケ！」

「らめツ！こんらあいし
あつてるみらいな
せつくすツ！
こいびとみたいに
だいちゃだめえ！」

「なんだなんだ
なのは
チヨ口過ぎだろ」

「へへへ
男経験の無い女つてのは
こうやつて扱えば
イチコロよ」

(あうう...)

「だめ！愛してるって言いながらハメるの禁止！お嫁さんにするって言うのも禁止！胸の下キ下キが止まらなく、なつちやうからハメながら言うのやめてえ！」

「ハハハ！マジでちよれえなの！ハメてやりやあつけなくイキやがる！じゃあこいうのはどうだなの！」



「強制的に孕ませで強制的に出産させて強制的に娶ってやる！自室的に監禁してやる！毎日バメまくって毎年ガキ産ませまくってやるからな！俺専用の赤子製造機にしやるぞなの！」

「ひ！ダメ！それダメ！惨めに強引に！愛されちゃうの想像して！深イキするの！深イキするのおなの！」

「こんな歪な形でも愛をぶつけられるとときめいてしまう！私に、こんな性癖あつたなんて！」



「うって言ってみろほら」

「ハイ…」

「なののはラブハメ、ラブ中出しに
まるで弱い激チヨロおまんこメスです。
ハメられる時、中出しされる時
愛してる嫁にする」と言われるだけで
蕩け落ちて中出しを許してしまいます。

「どうか、なののはとハメる時は
この弱点を刺激しまくってください。
呆気なくこのエースオブエース、
高町なのはが貴方のお射精を
受精してイキまくります」

「よしじゃあもう一ハメ行くか
コイツを娶るのは俺だぜ」

「ふざけるコイツは俺の嫁だ
ぜってえ俺が孕ませでやるぜ なのは」

（ああ…私、この中の誰かに絶対娶られちゃう…）

コメ

お買い上げいただきありがとうございます。

&

発行が遅延に遅延して申し訳ありません。
イベント中止が重なる中で締め切りレスになる事で
どうも尻に火が付かなくなっているのと
最近の遅筆化が重なり、発行が2カ月も遅れてしまいました。
おかげで作業中に次の本の衣装ネタを思いついてしまう始末。
これは遅筆化を防ぐ訓練が必要な気がします。

とは言え、どの道遅れるのならば
もう少しページ増やそうという事で
12~16ページくらいのペライ本の予定だった当本を
20ページ本に増やしました。
それで、もっと遅れてれば世話ないぜという話ですが
3隊長も切りよく4パターン+オマケページを設ける事が出来ました。
そんな訳でここからはオマケページとなります。

では、次ページより

3隊長拘束折檻
はじまるよー！

「男の味と縄の味を知ったら
次は鞭の味を知らねえとな！なのは！」

うフウツ！

「そのふてぶてしいエロ女体に
男に屈服した喜びを刻み込んでやるぜ！」

んふううツッ！

裸で天井から吊り下げられた
完全に無防備な私に、無遠慮に
そして嬉々として鞭が入れたら
痛みを振ればその振った方角から
新たな鞭が入られる折檻地獄。
快楽の次に与えられる痛みの前に
私の心の中に奴隷としての言葉が沸きあがってきた…
(ゆるしてください…ごしゅじんさま)

「オラ！メスタフエイト！
マゾのお前に相応しい嗜好だろ！」

「感謝して鳴け！マゾフタ！」

んんーッ！

んんんんッ！

今日は三角木馬を体験した。逃げ場のない木馬の上で身を振る私に御主人様達は絶えず罵りの言葉を浴びせながら鞭を入れて下さいます。木馬におまんこを辱められ、鞭で引っぱかれる有様に執務官、隊長の理性も誇りも打ち砕かれ、また一段、マゾに開花した自分を感じ、木馬に跨った間抜けな姿でイキまくりました。

「あかん！おまんこ！鞭入れちゃあ！あかん！
女の子の大切な所！そんな物でぶつたらあかんて！」

「ありや、これスピードだ
まへはやて側から見りゃハートだし
このまま叩き続けるか
後日ちやんとしたハートまみれに
してやるからなはやて」

いったあッ！

や…めってッ！

懇願を無視される絶望の中
おまんこを滅多叩きにされ
更なる調教予告を受け
おまんこにハートを刻まれる自分を想像しながら
私は無様なイキ様を晒してしまおうのでした。



BOBCATERS

奥付

誌名: 3隊長拘束調教2

発行日: 2021年7月

サークル: BOBCATERS

著者: 波紋愛

<http://aria.saiin.net/~ng-ng/>

MAIL: ng-ng@aria.saiin.net

印刷所



お買い上げ
ありがとうございます。

注意

本書を無断転載
アップロードをすると
制作費がなくなって
カラー本が作れなくなって
続編製作の
目途が立たなくなるので
本書の内容の無断転載
アップロードを禁じます。

無論、未成年の購入も
禁止します。

My doujinshi publishing
group, Bobcaters,
has a stated policy of
discontinuing publishing
of a doujinshi series
when a work is uploaded
for public consumption
without my permission.
Please do not upload
my publications if you
wish to support my
efforts to publish new
and interesting
doujinshis.

Thank you.